

議会広報広聴特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 平成30年7月19日(木)～20日(金)
- 2 視察先 「第31回近畿市町村広報紙セミナー」
(主催：毎日新聞社 毎日文化センター)
〒530-8251
大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞 毎日インテシオビル4階 会議室
TEL 06-6346-8700
- 3 テーマ (1) 特集記事の取材と書き方のポイント
(2) 読まれる紙面作りを目指して
(3) レイアウトには^{わけ}理由がある～伝えたい事が伝わるために～
(4) 『伝わる』写真の撮り方、選び方
(5) 伝わる文章を書くために
(6) ミスを防ぎ分かりやすく～新聞校閲の視点から～
(7) 事例報告とフリートーキング
- 4 視察者 委員長 上田 倫久
副委員長 村岡 峰男
委員 芦田 竹彦
委員 足田 仁司
委員 石津 一美
委員 井上 正治
委員 清水 寛
議会事務局 木山 敦子

◆タイムスケジュール

【7月19日(木)】

- 10：00～10：10 開講あいさつ
砂間裕之・毎日新聞大阪本社編集局長
- 10：10～11：10 講義「特集記事の取材と書き方のポイント」
講師：梶川 伸・元毎日新聞論説委員
- 11：20～12：20 講義「読まれる紙面作りを目指して」
講師：三橋裕二・毎日新聞大阪本社編集制作センター編集部長
- 12：20～13：20 昼食休憩
- 13：20～14：20 講義「レイアウトには理由がある～伝えたい事が伝わるために～」
講師：岡本晃博・毎日新聞大阪本社企画部グラフィックデザイナー
- 14：30～16：00 講義「『伝わる』写真の撮り方、選び方」
講師：西村 剛・毎日新聞大阪本社写真部副部長

【7月20日(金)】

- 10：00～11：10 講義「伝わる文章を書くために」
講師：佐竹秀雄・日本漢字能力検定協会現代語研究室長
- 11：20～12：20 講義「ミスを防ぎ分かりやすく～新聞校閲の視点から～」
講師：中高正博・毎日新聞大阪本社編集制作センター校閲副部長
- 12：20～13：20 昼食休憩
- 13：20～15：50 「事例報告とフリートーキング」
- ◎事例報告
- 自治体代表 宝塚市市民交流部きずなづくり室広報課 小川ゆかり課長
議会代表 甲賀市議会広報特別委員会 橋本恒典副委員長
ネット広報 猪名川町企画総務部企画財政課秘書広報室 宮田ゆみ室長
- ◎フリートーキング
- 自治体広報等など 司会：中島章雄・毎日文化センター代表取締役社長
三野雅弘・毎日新聞論説委員
- 議会広報 司会：梶川 伸・元毎日新聞論説委員
- 15：50～16：00 閉会式

1 調査事項

【特集記事の取材と書き方のポイント】

かじかわ しん

◆講師：梶川 伸・元毎日新聞論説委員

1 結論

- (1) 広報紙づくりで大事なことは何か。→それを話し合っ
て決め、共有すること。
- (2) 市民目線・住民目線に立って作る。→市民・読み手の発想→情報強者からは上から目線になる
ので要注意
- (3) 取材は具体性を求める。→記事は20行に1つ「えっ、へえ〜」を盛り込む。
- (4) 署名やイニシャルを入れた書き方の検討を。
- (5) 家族を活用しよう。→身近にいる読者に完全な勘違い探しをしてもらう。

2 理念が大事

松下幸之助の言葉（旧・松下資料館の展示から）

- (1) 事業経営で一番根本になることは、経営理念を確立すること。
ア この会社は何のために存在しているのか。
イ この会社はどのようなやり方で経営を行っているのかを示す。
- (2) (1)を広報紙に変えると、広報紙発行で一番根本になることは、発行理念を確立すること。
ア この広報紙は何のために存在しているのか。
イ この広報紙はどのようなやり方で発行理念を具現化するのかを示す。

3 すべて結論をだすのは担当者

理念をはっきりと

人口規模や地理的条件、歴史や抱えている問題で変わる。これを考えて結論を出すことが、理念を作ること。

4 困った時には理念に戻る

発行を重ねていくと、壁にぶつかることがある。その時には、理念に立ち返る。

5 特集の作り方

- (1) 特集は理念を反映しやすい。→作り手の意思を出しやすい。→主観を入れやすい。
- (2) 対象を絞りやすい。
- (3) 制約を取り払いやすい。
- (4) 遊びができる。
- (5) ボリュームが大きいので、読んでもらう工夫がいる。
ア 取材は具体性を求める。インタビューが一番効果的
イ 記事に20行に1つ「えっ、へえ〜」を盛り込む。

6 取材の心得

- (1) いかにか具体性を引き出すか。→作文の反対

(2) 具体性とは

- ア 読者が知らないであろう事実
- イ 読者に役立つデータ
- ウ 読者がなるほどと感じる考え方
- エ その人だからこそ言える言葉

7 署名を入れることの検討を

- (1) どの、誰の考えやデータか分からない記事が目立つ。未熟さ、情報強者のおごり。
- (2) 署名は、親しみがわく。読者との距離が近づく。最大の売りとなる。
- (3) 取材過程そのものも書ける。
- (4) 取材対象とのやりとりも書ける。
- (5) 感想を書くことができる。新聞記事と正反対（新聞記事がおもしろくない原因）
- (6) 特集は狙いがはっきりしている。意思や思い、感情を入れやすい（署名が適している。）。

8 市民との共同作業

- (1) 表現の自由から知る権利への流れ。
- (2) 市民参加で市民の力を活用する。市民と一緒に作ったまちづくり。
- (3) 家族の活用。家族の意見は参考になる。

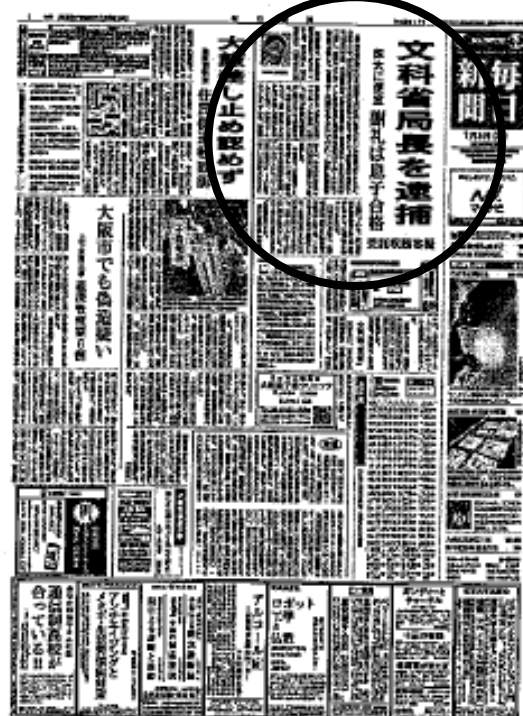
【読まれる紙面づくりを目指して】

みつはしゆうじ

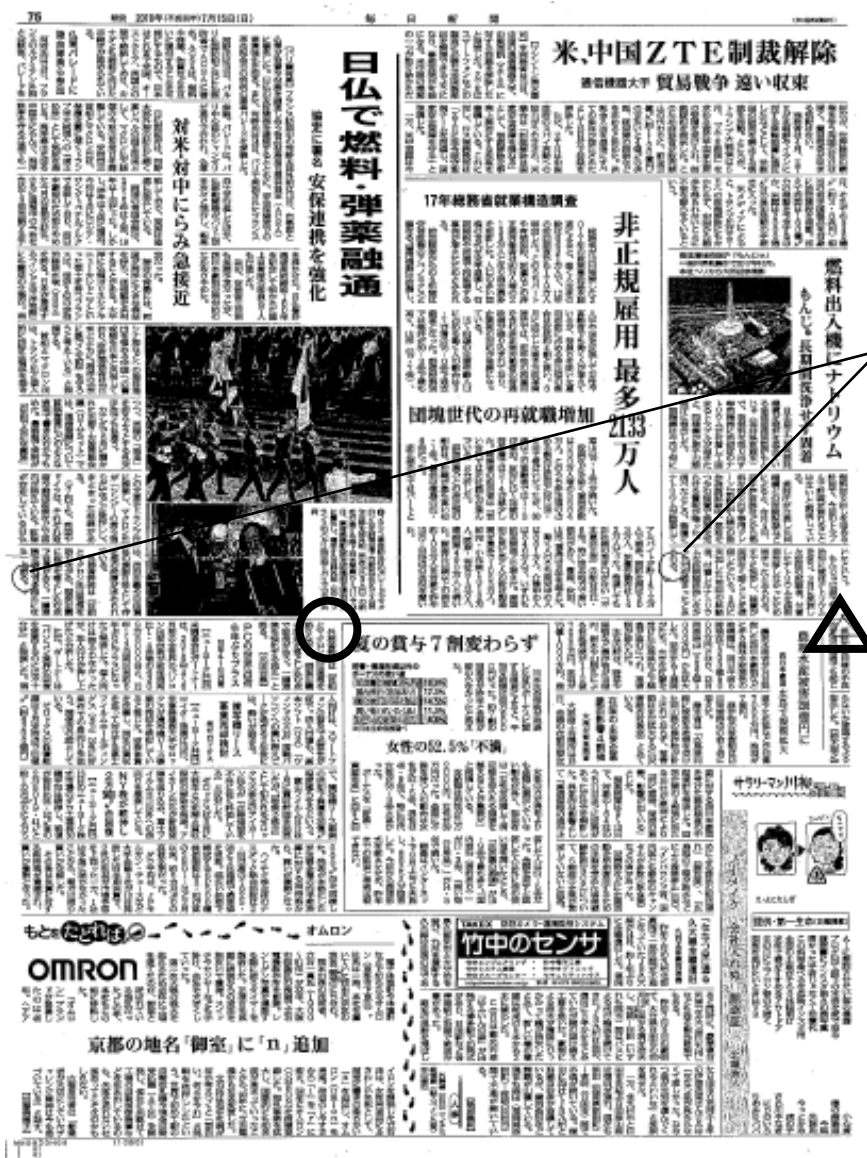
◆講師：三橋裕二・毎日新聞大阪本社編集制作センター編集部長

1 紙面作り基本中の基本

- (1) 縦書きが基本。最も大事な記事は、右上に配置する。（右）
- (2) 見出し、写真・図表は×印に配置する。（左）



(3) 両降り、段落降りは読めなくなる。



(4) 右から左へ読んで行き、端まで行ったら右へ戻る。毎日新聞の場合は、ブランク版で1面60行、社会面73行。この幅の半分以上、視線を戻らせるのは不親切

2 大事な原稿とは？

- (1) なるべく大勢が一致する価値判断の基準を持つ。
- (2) 命、暮らし、平和…。優先すべき価値基準だが、難しい選択である。商業紙でもあるため、毎日新聞主催事業など、複数の価値観を天秤にかけながら制作している。

朝刊 豪雨の始まり。近畿圏で15万人を対象に避難指示が出されたことがトップニュースに（次頁左）。雨は広域で降り続き、一夜明けるとより深刻な状態になった。避難指示、避難勧告の住民は257万人に激増した。

夕刊 トップニュースはオウム真理教の松本死刑囚の死刑執行（次頁右）。編集者は、日本の存立すら脅しかねない大事件の結末をトップニュースに選んだが、この時点で豪雨被害が「平成最悪」の規模に達していたらどうだっただろうか？



平成 30 年 7 月 6 日の朝刊：豪雨



平成 30 年 7 月 6 日の夕刊：死刑執行

3 見出しの作り方、テクニック

(1) 見出しは単なるインデックスではなく、記事の超要約

拳銃強奪・発砲 2人死亡

(2) 見出しの大きさとニュースの重要性を伝える。

横、全60行を使った見出し

主見出しは、7~9文字

縦見出しのワキ (ソデ) は、10文字が基本、11文字以上は避ける。

(3) 時には、紙面で遊んでみる。

2017年1月16日 (月) 14版 第30頁

とも 2020 1971-ゼロ社会へ

若い命を犠牲に クラシック演奏で 小中学生の経典を聴かせる

20周年 65歳から74歳まで、9人と限らず、全日本吹奏楽連盟の吹奏楽部員が、新年の第一歩として、クラシックの演奏会を開いた。吹奏楽部員は、クラシックの演奏会を開いた。吹奏楽部員は、クラシックの演奏会を開いた。

車両とホーム対策予定なし

隙間40分の恐怖 特急「スーパーおき」

原因究明が急務

スマホ使用など

2017.1.16 西部本社版

ななめの矢印。実際に40 cmある。
ビジュアル的にも訴えることができる。

- (4) インフォグラフィックを活用する。
- (5) 毛色の違う記事を盛り込み、ハコ組みしてみる。箸休めの効果を狙う。

あえて、毛色の違う記事を入れ、囲う。

愛媛県 柳瀬氏と面会

内閣府が予定通知

米議会 子連れOK

ガバナンス崩壊 財務省

麻生氏 進退考えず

野党国会大敗

「加計学園問題の続報」「財務省セクハラ麻生氏進退問題」「国会の与野党攻防」と、眉間にしわが寄りそうなニュースが並ぶ中、写真部や編集者が母親である上院議員の柔らかな笑顔に目をとめた。

米議会の規則改正というニュースバリューというより、この笑顔で1面に選ばれた。

(6) 写真を大胆に使って、敢えてルールを壊してみる。



いい写真ではないが、紙面のアクセントにはなる。写真を見ただけでタイトルが分かる。

【レイアウトには理由がある～伝えたい事が伝わるために～】

おかもとあきひろ

◆講師：岡本晃博・毎日新聞大阪本社企画部グラフィックデザイナー

1 レイアウトの意味

- (1) 誰のために何のためのレイアウトか。
- (2) 迷わせない、混乱させないためにレイアウトする。

2 紙面のレイアウト

印刷物は、大勢の人に情報を知ってもらうためのもの。

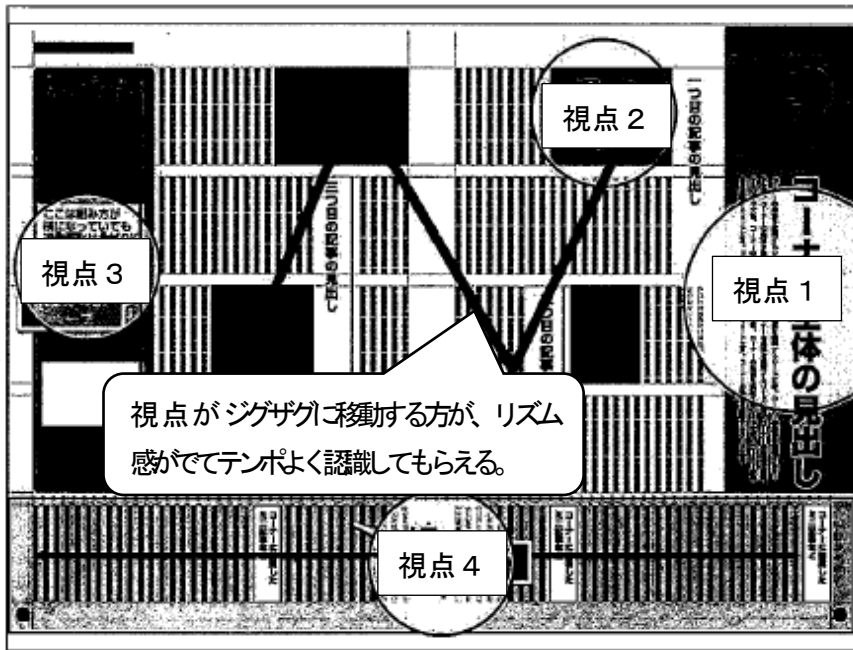
3 見やすさと見にくさの境界

- (1) 機能するレイアウトを探す。
- (2) フォーマットの重要性
- (3) 読みにくさ、わかりにくさをチェックする。
- (4) 視点が斜めに動くようにしてリズムを出す。
- (5) 伝えたい内容を整理すればレイアウトが見える。

4 身の回りから学ぶ

他者に対する気遣いを形にする。

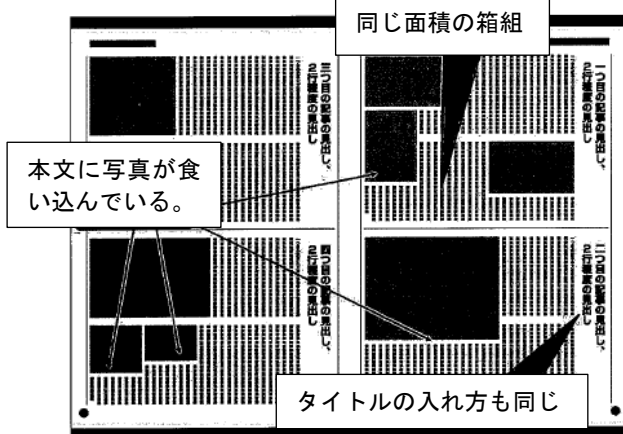
5 フォーマットの例



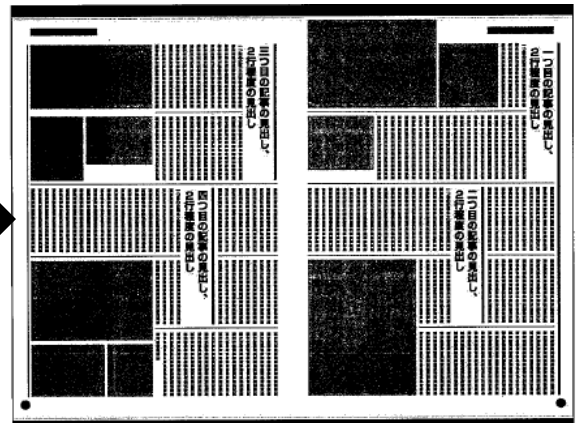
内容をブロック分けしてタイトルと写真がぱっと目に入るようにして全体像と、どういう流れになっているかがなんとなく分かるようにする。

目は上下左右に動くため、ジグザグにものを配置した方が、無理なく視点を動かして全体を把握することができる。

校正前



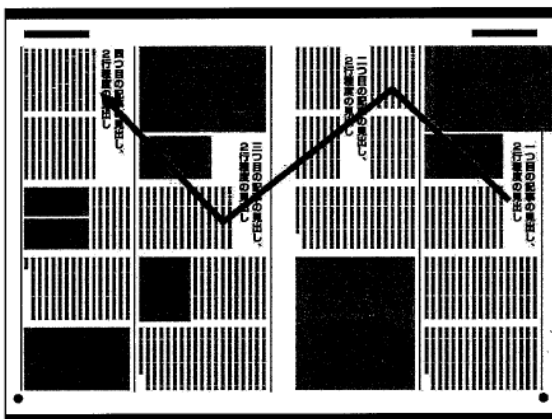
◎校正後



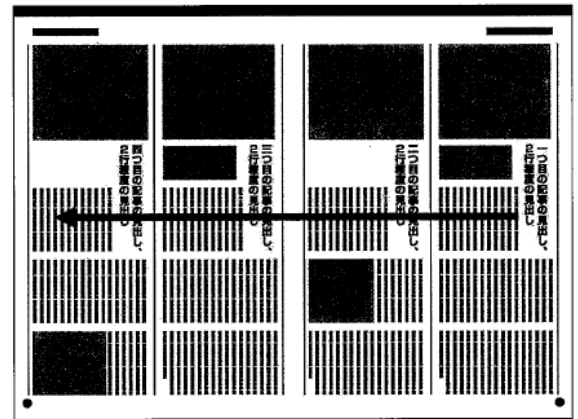
本文は4段組になっているが、本文に写真が食い込んで配置されているのでフォーマットが破綻してしまっている。

目を引く見出しが4つ、斜めに表れている。リズムがでる。目を動かす、ページをめくるという人の体の動きを誘発するために動的なレイアウトにする。レイアウトは好き嫌いやセンスで決めるわけではない。

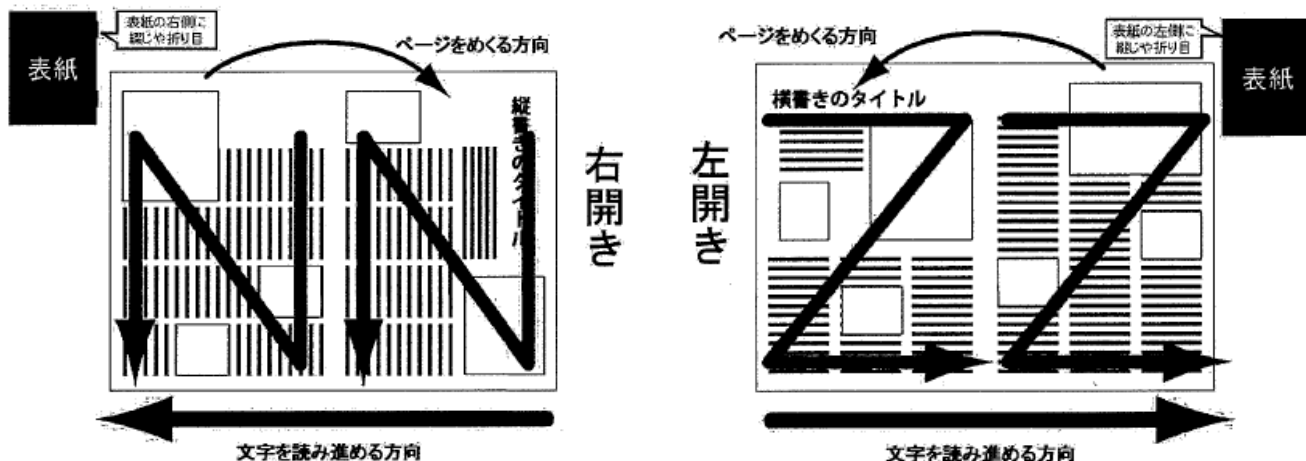
◎校正後



◎校正後



6 縦組みと横組み



ジグザグにすることにより、リズム感が出て、テンポよく認識してもらえる。

4段組より3段・5段組の方が、リズムがでる。レイアウトさえ破綻しなければ4段・6段でもよい。

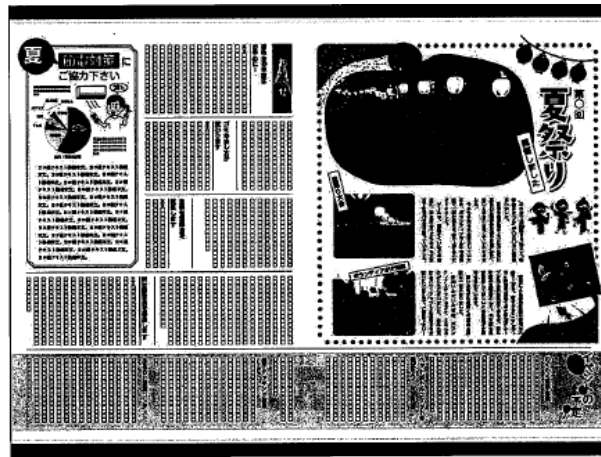
表紙の右側に綴じや折り目があるものは、向かって右側にめくっていくので、右開き。左側に綴じや折り目があるものは左開き。縦組みの文章が主体の場合、右開きが多い。進行方向は右から左。左開きは横組みが主体の場合が多い。左から右に向いて読み進める。

7 内容によって合うレイアウトがある

夏祭りを題材にした例：掲載する内容に応じたレイアウトにする。



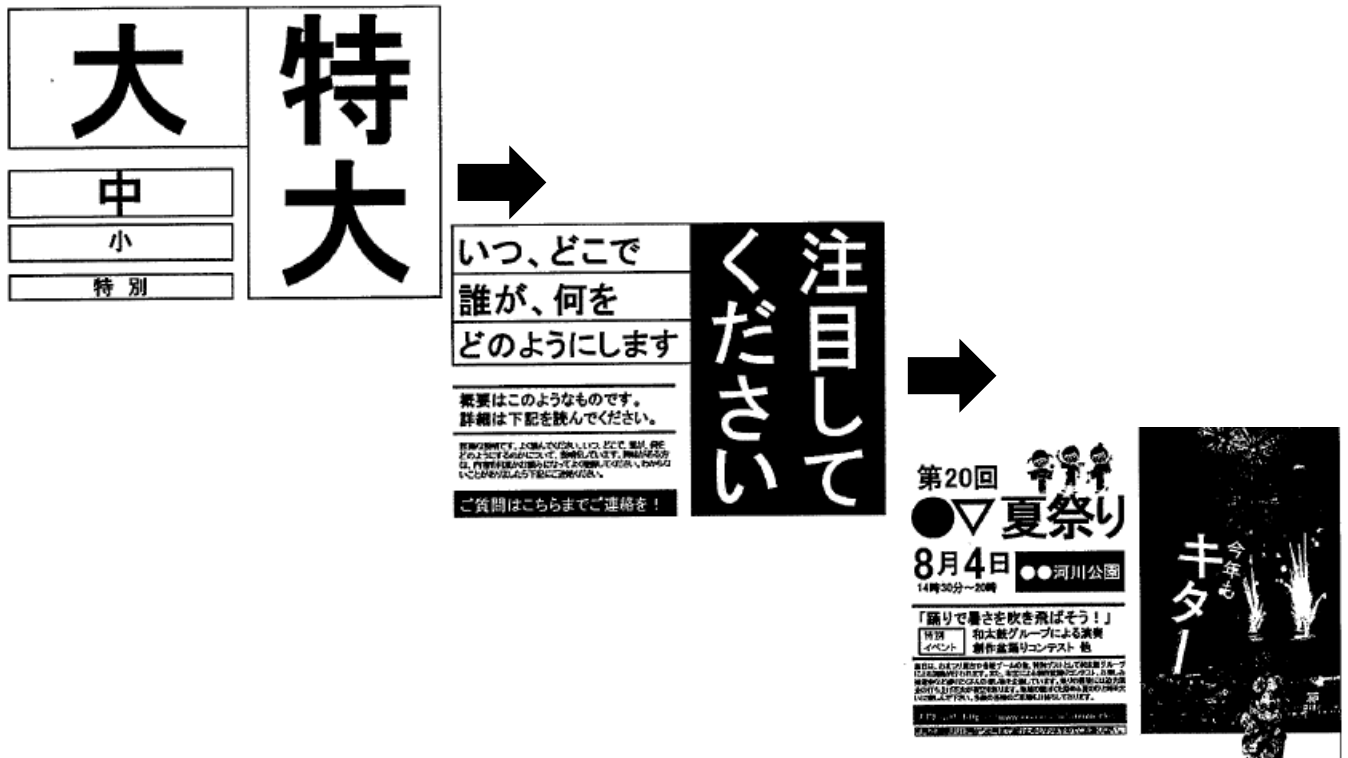
規模が大きく何千人も来場するようなイベントの場合、写真や記事の材料も多く、レイアウトも大胆なものの方が合う。



地区の夏祭りなど、わけあい合いとしとイベントの場合、盛りすぎず、ちょうどよい仕上がりとする。

8 内容を分類して並べる

意味の重要度、興味のひきやすさ等、次頁、図のように特大、大、中、小で分けられる。一般的な概念で並べ、入れやすく出しやすい定型の入れ物を用意して、必要なものを収納し、しかも誰でも迷わずどこに何があるのかわかる状態にしておく。それがレイアウト作業の本質。そのようにして作っていけば、自然にレイアウトやデザインの形が見えてくる。



【『伝わる』写真の撮り方、選び方】

にしむら たけし

◆講師：西村 剛・毎日新聞大阪本社 写真部副部長

1 写真とは

読者の注意を引き、その場の雰囲気を実際に読者のもとに届けるために、そして確実に記事を読んでもらうために、「伝わる写真」が求められる。

- (1) 紙面上、目立つ。
- (2) ページを開くと真っ先に読者の目にとまる。
- (3) 役割は、文字原稿で伝わらない現場の情報・雰囲気を読者に伝える。

2 写真の理論

(1) 写真が写るしくみ

レンズを通った光が一点に集まる。この一点にあるCCD (CMOS) などの撮像素子に結像することにより画像が記録される。これを「露出」といい、適切な光の量を与えること（適正露出）によって「きれいな写真」となる。

露出をきめるのは、「感度」「シャッター速度」「絞り」の3要素

ア 「感度」

数字が大きいほど感度が高く、より少ない光の量でも適正露出となる。感度が高くなるほど、ざらつきが目立つなど画質が悪くなる。

イ 「シャッター速度」

シャッターが開いている時間。レンズを通過する光の量を時間で調節している。速くすると動いているものが止まって写り、遅ければぶれて写る。

ウ 「絞り」

レンズを通過する光の量を、羽根などによって調整する装置。水道の蛇口のように大きく開いたり、小さく絞ったりして通過している光の流れを調節している。

絞りを開くとピントが合う範囲が狭く（浅く）なり、絞ると広く（深く）なる。これを被写界深度という。

3 写真を撮るとき、選ぶとき

(1) 人物・集合写真

ア 顔だけの時は口角を上げてもらうなど、ひと工夫

イ ポートレートはコミュニケーション。とにかくしゃべり続けること。眼力（めぢから）が大事

ウ 集合写真はでき限りギッチリと。でも隠れないように。表情までよく見せて、できればアクションも。自分の立ち位置を考えよう。

(2) 会議・会合・講演会写真

ア 寄れるなら、できるだけ寄って撮る。

イ いろんな角度から撮っておく。

ウ いろんなシーンも撮っておく。

エ 一脚、あると便利

(3) スナップ写真

ア 「声かけ」が主流。子どもだけの時は、親に了解を得る。

イ 表情がすべて。みんなうつむき加減ではだめ。

ウ 表情を見せるために、ストロボは有効

エ ブツ撮りは窓際で。広角レンズはNG

オ 料理写真は「器写真」ではない。何を見せたいか。

【伝わる文章を書くために】

さたけひでお

◆講師：佐竹 秀雄・日本漢字能力検定協会現代語研究室長

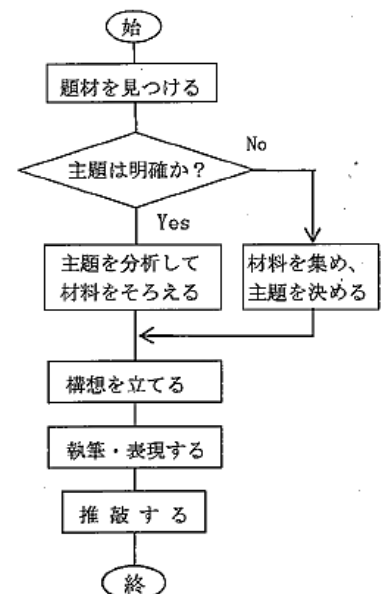
1 広報の目的とそのための留意点

- (1) 目的は、読者に主題（述べたいこと）を伝えることであり、正しい日本語で書くことではない。
- (2) 主題と文章の関係を知っておくことが必要
- (3) 伝えるための技法、テクニックをマスターすること。

2 文章のしくみ

- (1) 文章作成には、次の3つの要素が必要
 - ア 主題（意図）：何が目的で、何を伝えたいか。
 - イ 構成（アウトライン）：どんな順序で述べるか。
 - ウ 材料（内容）：主題を作り上げていることがら。
- (2) 文章に対して、次の認識を持ちたい。
 - 主題は、文章全体にかかわる。
 - ア 主題（趣旨・意図を含む）が明確でないと文章は書け

【文章を書く基本的な手順】



ない。

イ 文章は一続きのものではなく、ブロックによって構成される。ブロック化した材料を整理してから書き始める。

3 文章構成、文構成上の留意点

(1) 箇条書きの精神

文章の区切り（段落・節・章）をはっきりさせ、ひとまとまり（一つの段落や一つの文）には、ひとまとまりの内容だけを書く。

ア 箇条書きを利用する。

イ 文を短くする。

(2) 予約の精神

ア 次に述べることを前もって知らせる。前文、見出し・小見出しを利用する。

イ 大づかみの内容を先に述べ、細かい部分を後で述べる。

ウ 重要なことを先に述べ、付加的なことを後で述べる。結論を先に書く。

三七〇年ぶりの超新星か	日本のアマチニア天文家が二九日の夜、三等星の明るさの星を発見した。
この新星を発見したのは、山口市立の前町、山口高校二年生の林田健太郎君（16）である、いつものように天体観測をし	ているとき、肉眼で午後八時三十分この星を発見した。場所は白鳥一等星デネブの少し北側で、赤緯四七度五〇分。

【悪文例】

あなたにお借りしたご本を早くお返ししなければならぬと思っていましたが、会社の用事で出張しておりましたのでつい遅れてしまいました。帰ってからすぐお送りするつもりでしたが、ご本がどこにあるか見当たらず、捜し出すことができませんでした。まことに申し訳ないことです。けさ会社の机に置いてあるのを思い出しましたので、すぐお送りしました。

【添削例】

お借りしたご本を今日お送りしました。ありがとうございます。早くお返ししようと思っていたのですが、出張しておりましたのでつい遅れてしまいました。また会社の机に入れておいたのを忘れて捜し回ったりしましたのでいっそう遅くなりました。お礼とともに、遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

4 用語・語法上の注意

(1) 用語・語法上注意すべきもの

例1：海外研修では、見たかった舞台を見れたのがよかったです。

→「見れた」ではなく「見られた」が正しい。

話し言葉の場合は、見れる、食べれるでもOK

書き言葉の場合は、見られる、食べられると表記する。

例2：映画を見た観衆は、感動に思わず鳥肌が立つほどでした。

→本来、「鳥肌が立つ」は、寒いとき、怖いときにしか使わない。

使いたければ、「文字通り、鳥肌が立つほどでした。」

「いわば、鳥肌が立つほどでした。」とする。

例3：親子の会話が少ないのは、もともと二人の関係性がよくないからだ。

- 「関係」と「性」、意味を同じくするものを並べない。「性」は不要
- (2) 「～たり～たりする」形式の乱れ

5 敬語表現における留意点

(1) 尊敬語と謙譲語

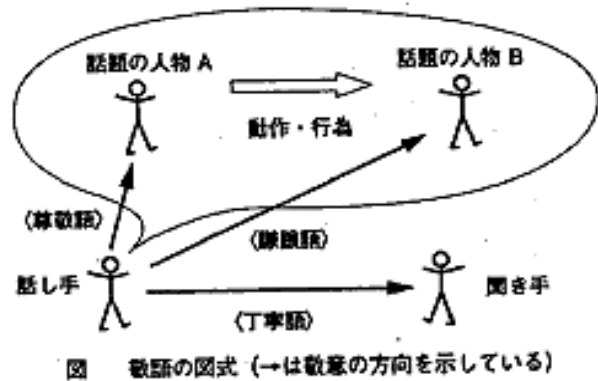
- ア 自分は、謙譲語
例：私が申しあげます。
- イ 相手・他人は尊敬語
例：先生がおっしゃる。

(2) 誤りやすい敬語

- ア 「お（ご）〇〇する」は謙譲語
×ご案内してください。
○ご案内ください。
- イ 「くださる」は相手、「いただく」は自分
×相手の方が、当日、遠方からわざわざこちらに来ていただくことになっています。
○来てくださる

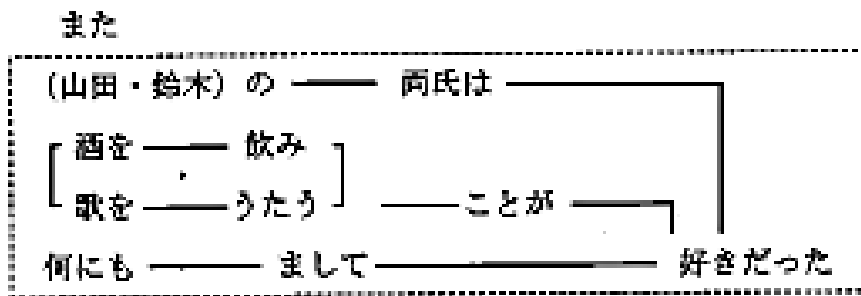
(3) 広報における敬語の節度

- 過度な敬語は不適切
不特定多数の人に読んでもらうもの。敬語をつかわなくてもよい。
「お話しを伺いました。」と書きたいが、「お話を聞きました。」でOK



6 読点の打ち方

また／山田／鈴木の／両氏は／酒を／飲み／歌を／うたう／ことが／何にも／まして／好きだった。



7 まとめ

- (1) 広報の文章の多くは、「主題→材料集め→構成→執筆」という順序で作るとよい。
- (2) 最も大切なのは相手に伝わること。「箇条書きの精神」と「予約の精神」がわかりやすさの原点
- (3) 読み手のことをどこまで考えられるか。読み手を思う心の深さが、記事の良さにつながる。

【ミスを防ぎ分かりやすく～新聞校閲の視点から～】

なかたかまさひろ

◆講師：中 高 正 博・毎日新聞大阪本社編集制作センター校閲副部長

1 新聞校閲の仕事

まず一読：字面をチェック（一文字一文字を見る。）
再読：比較しながら読む（表記の統一、文脈を考えて）。
さらに：気になる箇所を調べる。

- (1) 原稿、図版や紙面などの仮刷りを読んで
 - ア 文字や表現の誤りや不適切な点（表記の不揃い、慣用句の誤用など）を直す。
 - イ 基となる資料や他の出版物などつき合わせて、誤りや不明な点を直す。
- (2) 紙面の仮刷りを読んで
 - 記事、見出し、写真、図版を比べ合わせて、不揃いな点（矛盾、表現のばらつき）や誤りなどを指摘したり、直したりする。

2 こんな点に注意

- (1) ミスを防ぐ
 - ア 誤字（変換ミス）、脱字・余計な字（空白や括弧類も注意）
 - イ 日付、時刻
 - ウ 固有名詞、ルビ、数字（電卓で計算することも）
 - エ 二重表現、慣用語句の誤用
- (2) スタイルを整える、表記の統一
 - ア 漢字か仮名か
 - 「子供、子ども、こども」、「林檎、りんご、リンゴ」
 - イ 常体「だ・である」か敬体「です・ます」か
 - ウ 敬称・呼称
 - 「氏」か「さん」か「ちゃん」か
- (3) 分かりやすく
 - ア 主語と述語
 - イ 記事と写真・図表に矛盾はないか。
- (4) ミスの例
 - ア 思い込み、注意不足
 - × グラントフロント大阪 → ○ グランフロント大阪
 - ×（投稿者の名前）紘司 → ○ 紘司
 - × 崖っ淵 → ○ 崖っ縁
 - イ 変換ミス
 - × 会長に就任した毎日太郎さんが 豊富を語った → ○ 抱負を語った
 - ×（災害関連の図表で）心配停止 → ○ 心肺停止
 - × 罹災照明書 → ○ 証明書
 - × 建築基準法 施工令 → ○ 施行令
 - × リゾートホテルの 会員券 を購入 → ○ 会員権

- ×電車の台車枠に亀裂が入り、破断寸前だった→○破断寸前
- ウ よく読むと変な文
 - × (2018年サッカーW杯で日本代表が1次リーグを突破) 今回は強豪を破ったり、脅威の粘りを見せたり、最後には勝利へのこだわりを見せたり…
 - 驚異の粘りを見せたり、最後には突破へのこだわりを見せたり…
 - ×毎日市新聞町の路上で24日午前1時半ごろ、小学4年生の女兒(9)が…
 - 24日午後1時半ごろ
- エ 文のつながりが…
 - ×介護職員に対する利用者から暴力・暴言を受けている問題で…
 - 介護職員が利用者から暴力・暴言を受けている問題で…
 - ×(特定非常災害指定により)被災者が役所に出向くことや自治体窓口の混乱を回避することで、被災者と自治体が復旧や生活再建に集中できるようにする…
 - 被災者が役所に出向くことや自治体窓口の混乱を回避し、
- オ 見出し
 - ×関東甲信越、梅雨明け→○関東甲信地方、梅雨明け
 - ×A社、不正不公表「適切」→○A社、不正非公表「適切」

3 実際に校閲してみよう

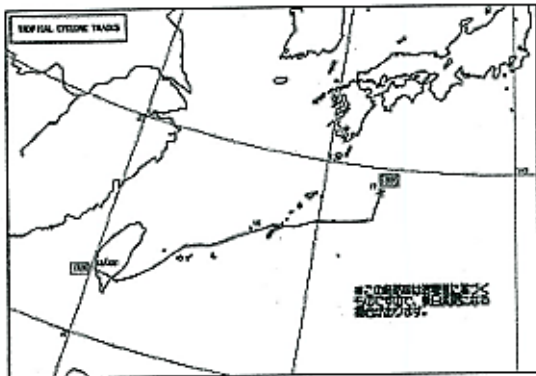
2018年(平成30年)7月9日(月)朝刊

台風9号は8日午後5時ごろ、佐賀県玄界灘付近に上陸した。同日午後11時現在、島根県境港市付近あり、中心の気圧は950mmHg。9日未明にかけ、近畿地方に最接近する見込み。気象庁は「数十年に一度の大雨の可能性があり」として、警戒を呼びかけている。

台風の影響でJR西日本やJR九州では、列車が遅延や後れが相次いだ。JR九州は9日午前9時過ぎに佐賀県内で規制値を超える秒速32メートルを観測したため、九州新幹線の運転をとりやめた。JR西日本の山陽新幹線も原則運転のため、に最大2時間遅れた。西日本を発着する飛行機やフェリーも大揺れに揺れたり、遅休した。

与那国沖で発生

台風9号は4日、沖縄県と那国島の西南西約340キロで発生。その後、台湾に上陸し、農業関係を中心に約10億台湾ドル(約37億ユーロ)の被害を与えた。その後、沖縄付近で停滞していたが、その後、急に北上して北上した。



九州北部 佐賀県

台風8号 北九州上陸

あす未明、近畿再接近

2 視察を終えて

昨年、毎日新聞・毎日文化センター主催の「近畿市町村広報紙セミナー」に初めて参加（委員2名と事務局職員1名）した。

セミナーを受講した団体が広報紙コンクールに参加できる要件となっており、「第62号 とよおかし議会だより」を出品したところ、「優良賞」を受賞し、「今期も続こう！」と委員会委員の大きな励みとなり、目標としてきた。

今年はさらにひとつ上の賞を取ろうと、委員全員でセミナーに参加した。

セミナーは、近畿圏の多くの自治体や議会広報に携わる議員や職員が参加しており、この夏で最も暑い太陽が照りつける中、参加者の熱気に沸く中での2日間、びっしりと講義を受けた。

日々、毎日新聞の制作に携わる記者、カメラマン、校閲・校正担当者、大学教授など、プロ視点からの講義は、とても勉強になるものばかりであった。

取材は、具体性を求め、記事は20行に1つ「えっ、へえ～」を盛り込むこと。読者である市民に「読みたくなる広報」を作るための工夫をすること。作り手の思いが伝わる記事の書き方、伝わる写真の撮り方など、今後の広報紙作成におけるノウハウを学ぶことができ、実り多き研修となった。

初めて広報委員になった議員も多く、「セミナー」は今後の「議会だより」の編集、制作に知恵と教訓、また作る姿勢を習得することができた。

セミナー受講後、2日間の成果を活かすべく「第67号 とよおかし議会だより」の制作に挑戦した。果たしてどんな結果が出るか、期待しながら発表を待ちたい。



セミナー受講のようす



毎日新聞大阪本社ビル前で